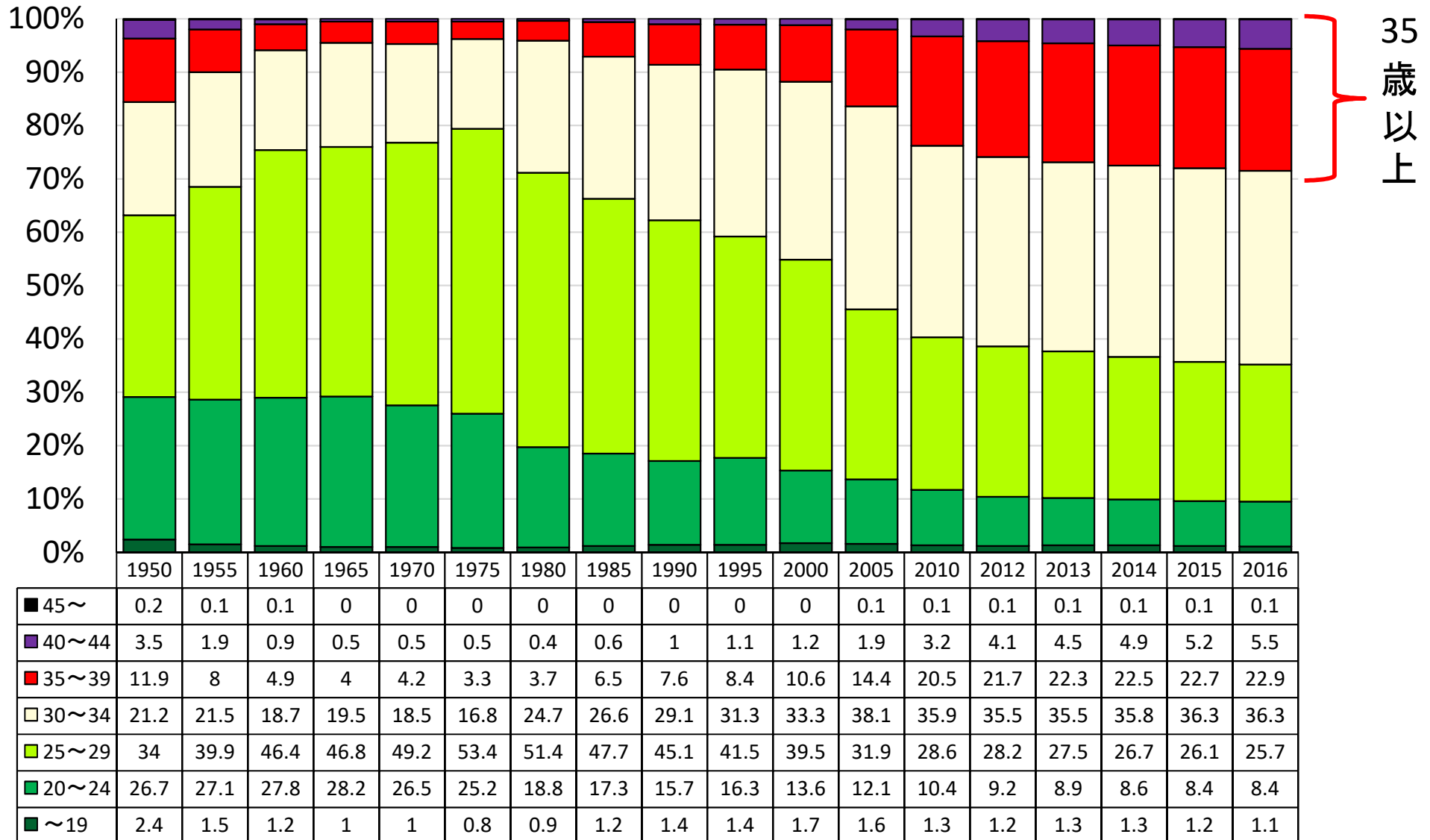


第2回妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会
2019年3月15日

妊産婦の診療の現状と課題

日本産科婦人科学会
日本医科大学
中井章人

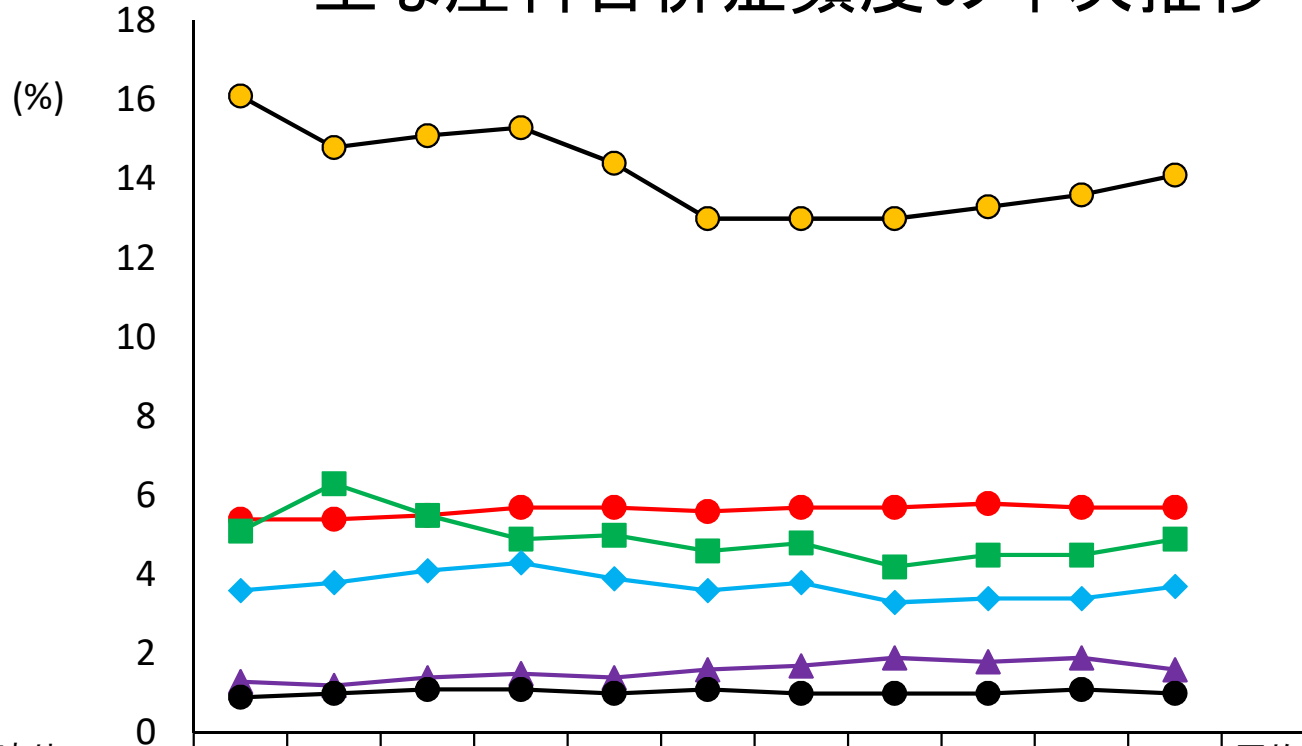
母体の年齢別出生数の割合 (厚労省人口動態調査)



■ ～19 ■ 20～24 ■ 25～29 □ 30～34 ■ 35～39 ■ 40～44 ■ 45～

母体の出産年齢が高齢化し、35歳以上が3割近くに増加している。

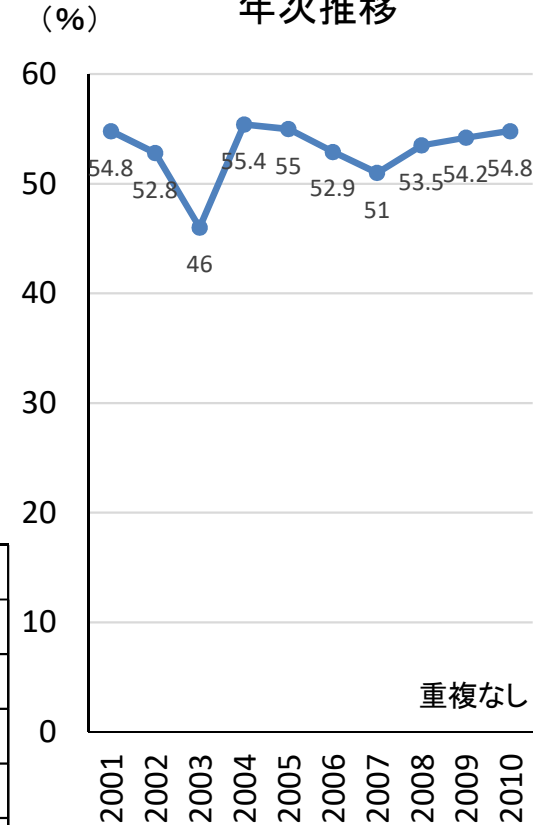
主な産科合併症頻度の年次推移



重複あり

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	平均
● 切迫早産	16.1	14.8	15.1	15.3	14.4	13	13	13	13.3	13.6	14.1	14.2
● 早産	5.4	5.4	5.5	5.7	5.7	5.6	5.7	5.7	5.8	5.7	5.7	5.6
■ 胎児発育不全	5.1	6.3	5.5	4.9	5	4.6	4.8	4.2	4.5	4.5	4.9	4.9
◆ 妊娠高血圧症候群	3.6	3.8	4.1	4.3	3.9	3.6	3.8	3.3	3.4	3.4	3.7	3.7
▲ 前置胎盤	1.3	1.2	1.4	1.5	1.4	1.6	1.7	1.9	1.8	1.9	1.6	1.6
● 早剥	0.9	1	1.1	1.1	1	1.1	1	1	1	1.1	1	1

産科合併症全体の頻度の年次推移



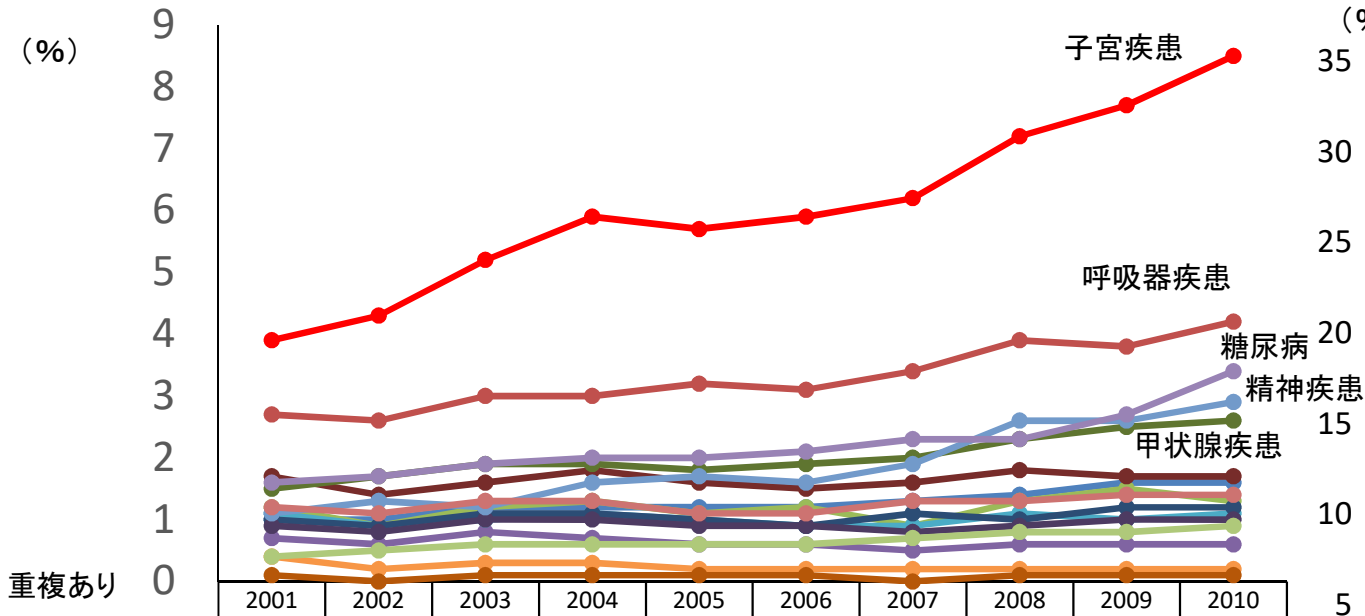
重複なし

切迫流産(約15%), 妊婦貧血(約15%)
など全産科合併症を加えた頻度

日本産科婦人科学会周産期登録2001~2010年単胎584,378例(日本医科大学 作成)

産科合併症は全妊産婦の54.8%に発生するが、その発生頻度は横ばい。

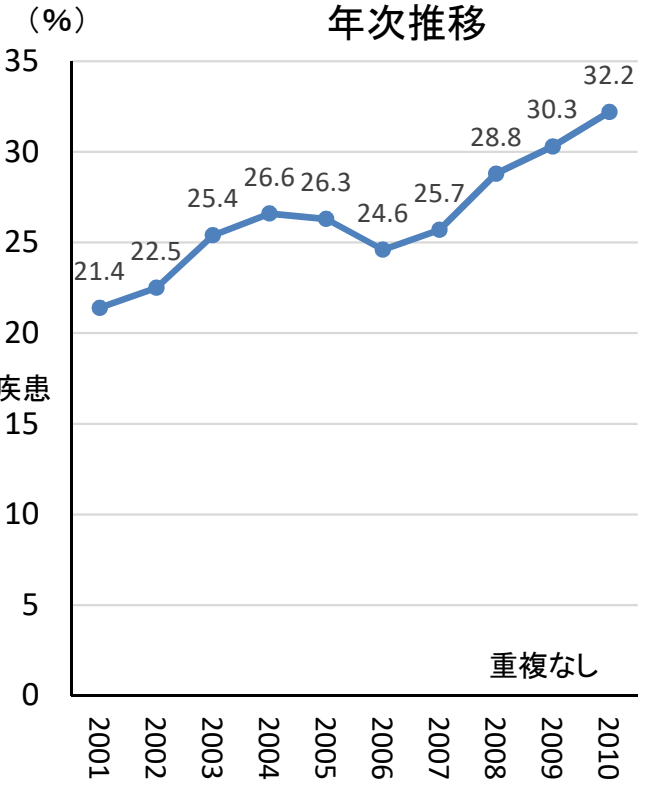
主な偶発合併症頻度の年次推移



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
中枢神経疾患	1	1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.4	1.6	1.6
呼吸器疾患	2.7	2.6	3	3	3.2	3.1	3.4	3.9	3.8	4.2
消化器疾患	1.2	0.9	1.2	1.3	1.1	1.2	0.9	1.3	1.5	1.3
肝疾患	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6
腎疾患	1.1	0.9	1	1.1	1	0.9	0.9	1.1	1	1.1
泌尿器疾患	0.4	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
血液疾患	1	0.9	1.1	1.1	1	0.9	1.1	1	1.2	1.2
心疾患	1.7	1.4	1.6	1.8	1.6	1.5	1.6	1.8	1.7	1.7
甲状腺疾患	1.5	1.7	1.9	1.9	1.8	1.9	2	2.3	2.5	2.6
骨・筋疾患	0.9	0.8	1	1	0.9	0.9	0.8	0.9	1	1
子宮疾患	3.9	4.3	5.2	5.9	5.7	5.9	6.2	7.2	7.7	8.5
外傷・中毒	0.1	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1	0.1	0.1
精神疾患	1.1	1.3	1.2	1.6	1.7	1.6	1.9	2.6	2.6	2.9
自己免疫疾患	1.2	1.1	1.3	1.3	1.1	1.1	1.3	1.3	1.4	1.4
本態性高血圧	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9
糖尿病	1.6	1.7	1.9	2	2	2.1	2.3	2.3	2.7	3.4

重複あり

偶発合併症全体の頻度年次推移



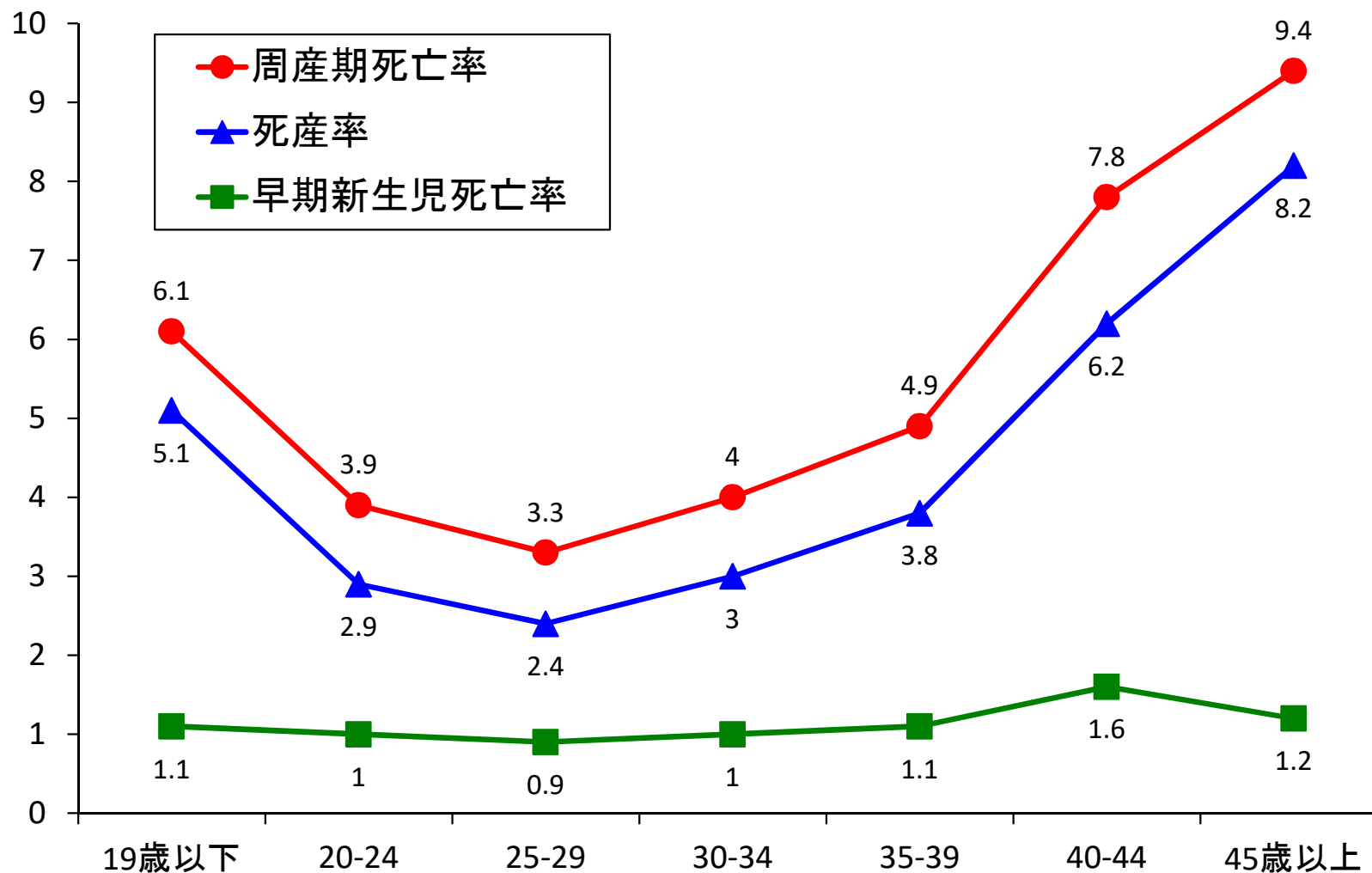
重複なし

偶発合併症(妊娠していなくても発症する疾患)は2001年に比較し2010年には10%以上増加し、全妊産婦の32.2%を占める。偶発合併症の増加は妊産婦の高齢化に依存している。

年齢階級別周産期死亡率

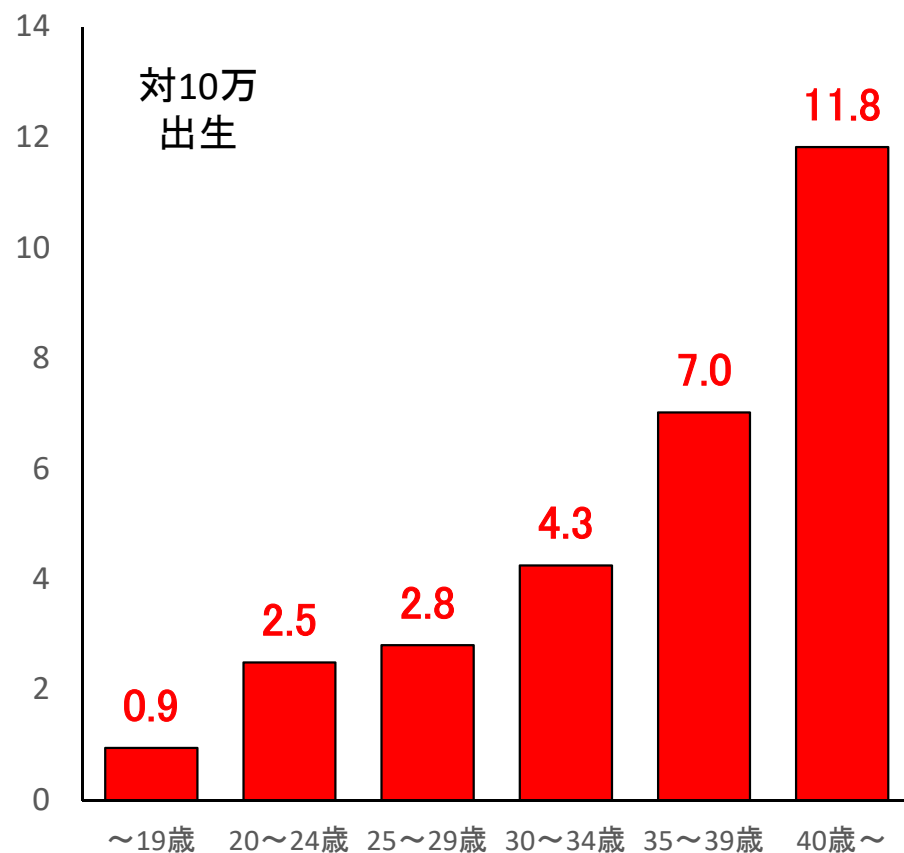
厚生労働省人口動態統計2012年より作成

出生千対

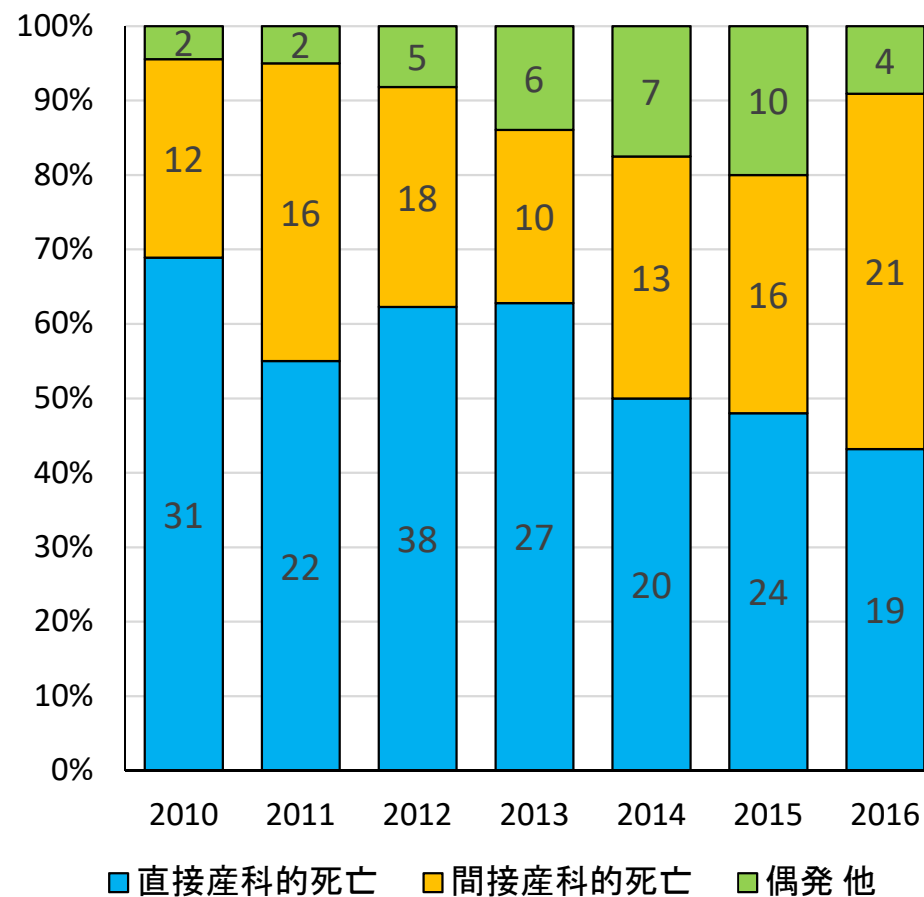


周産期死亡率は、年齢の増加に伴い上昇し、45歳以上では20歳代に比較し、3倍近くになる。加齢に伴う周産期死亡率の増加は主に死産率の増加による。

年齢別の妊産婦死亡率 (2010-2016年)



直接・間接産科的死亡の年次推移

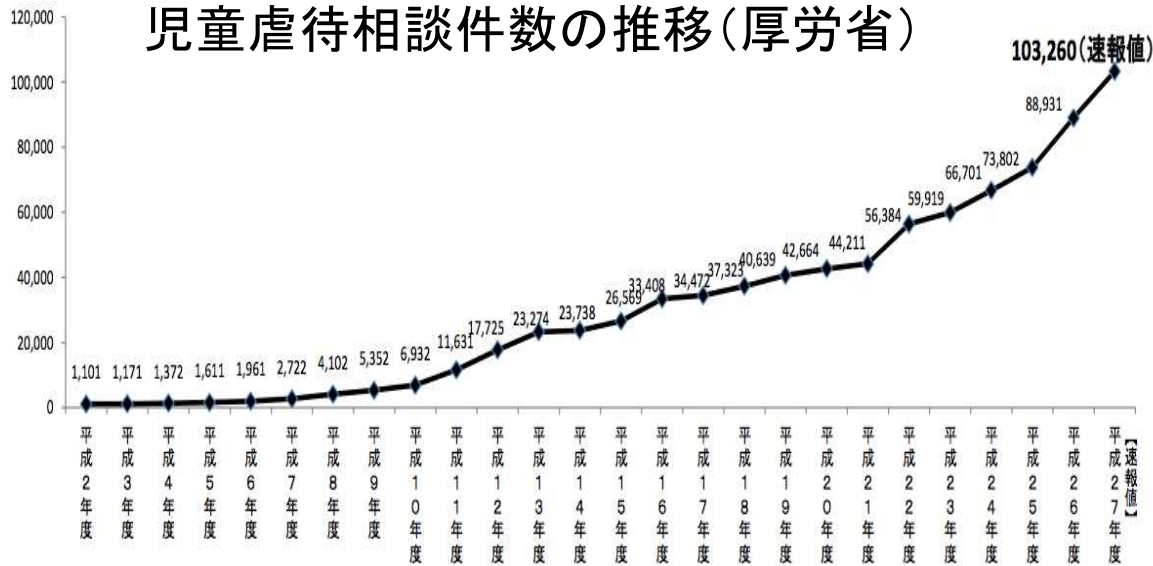


直接産科的死亡: 産後出血, 羊水塞栓など
 間接産科的死亡: 脳出血, 心・大血管疾患など

日本産婦人科医会: 妊産婦死亡報告事業(2010~2016年)に集積した事例の解析結果(n = 338)

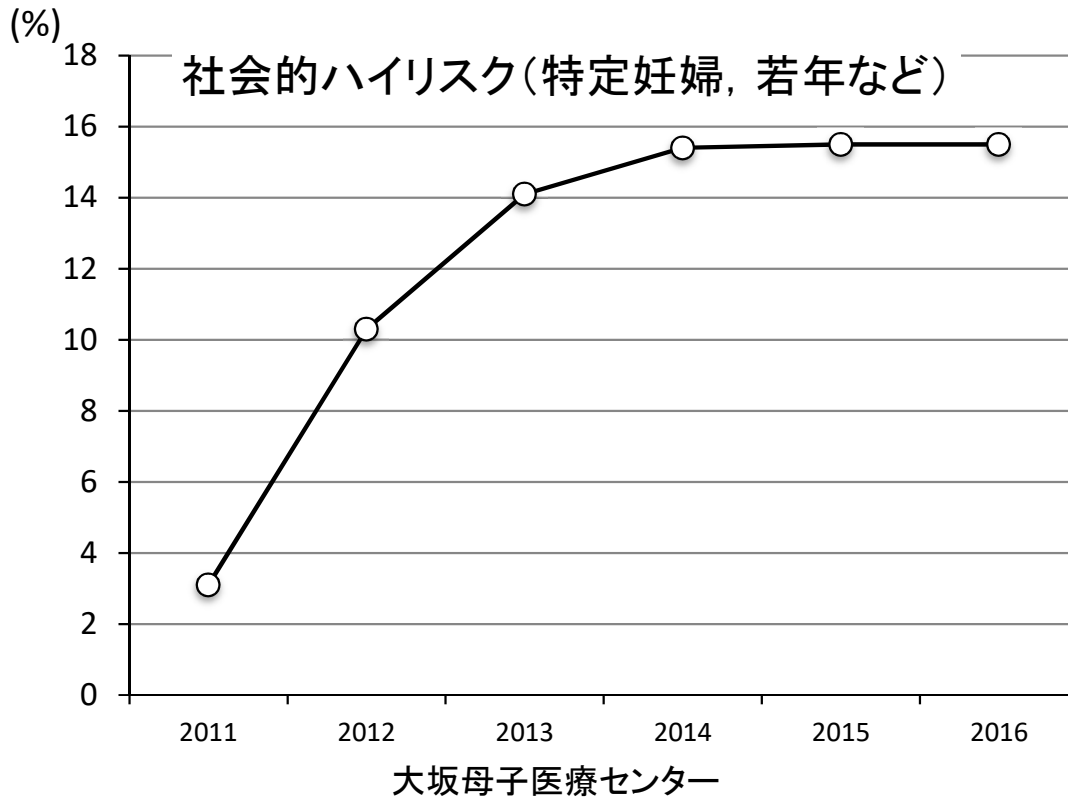
妊産婦死亡率は年齢の増加に伴い上昇し, 40歳以降では20歳代前半の4.7倍。脳出血, 心・大血管疾患などによる間接産科的死亡の割合が, 増加傾向。

児童虐待相談件数の推移(厚労省)



施設ごとの分娩数とメンタルヘルス介入必要割合

	回答施設数	分娩数	要介入数	頻度(%)
病院	338	20385	1108	5.4
診療所	735	18510	443	2.4
合計	1073	38895	1551	4.0



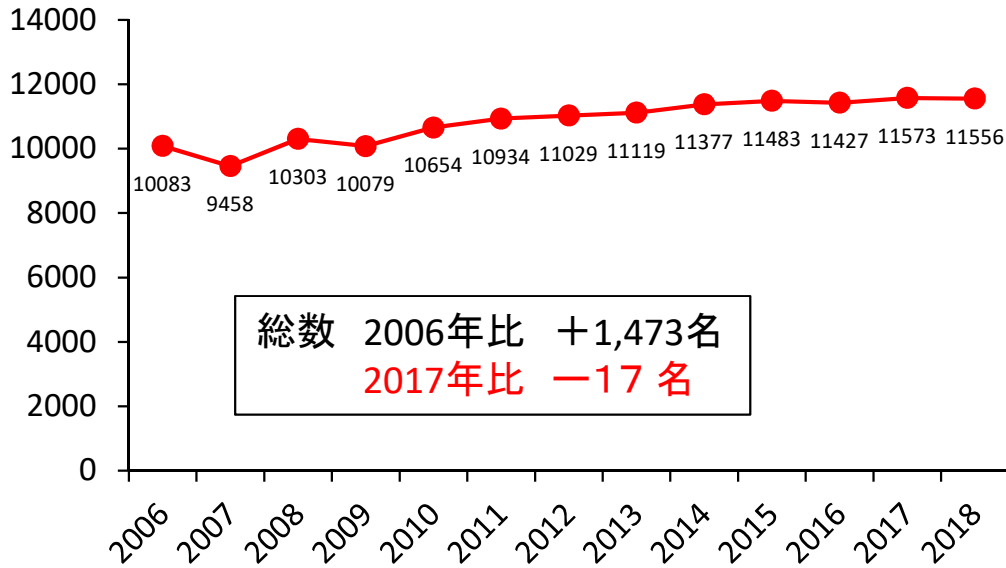
要保護・要支援児童の頻度

	総数	要保護・支援
特定妊婦	72	34 (47.2%)
一般	2852	64 (2.2%)

大阪府A市(平成25・26年度)

医学的ハイリスクに加え、社会的ハイリスク妊産婦が増加している。
 出産前後のメンタルヘルスケアの需要が高まっている。

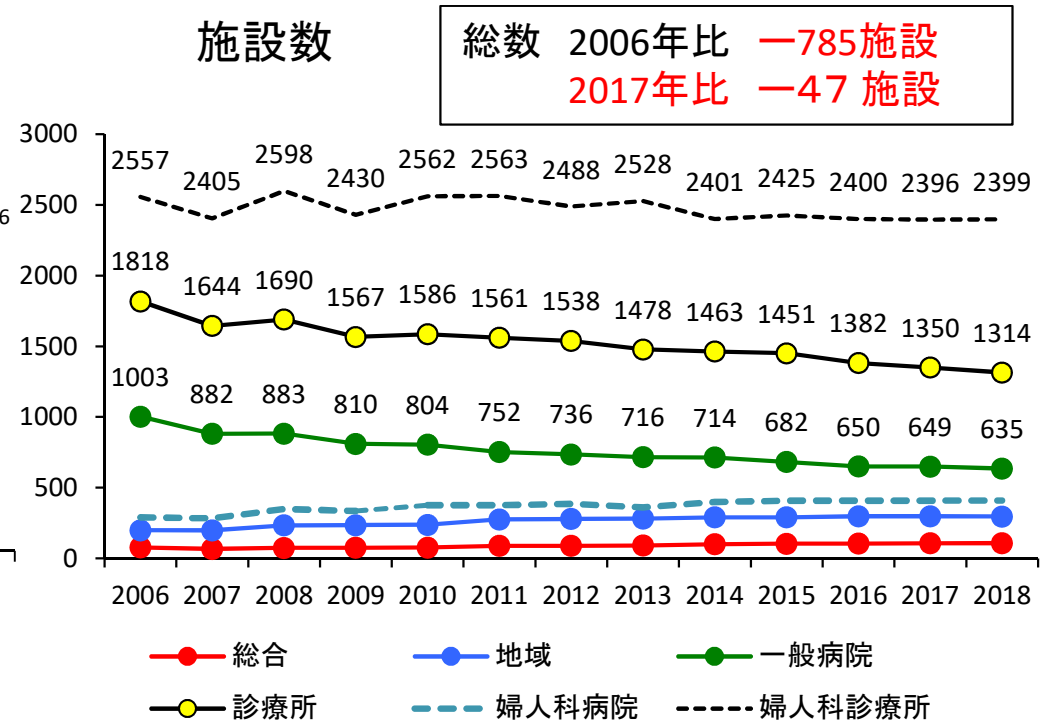
産婦人科常勤医師数



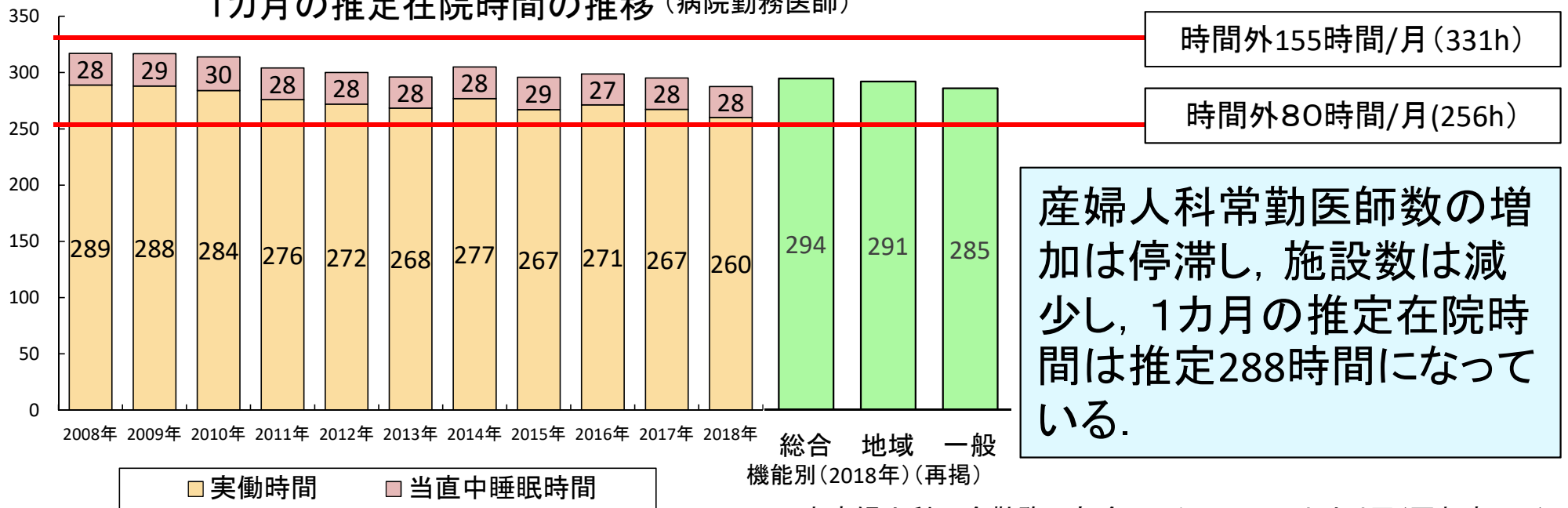
(時間)

● 総数

施設数



1カ月の推定在院時間の推移 (病院勤務医師)



日本産婦人科医会勤務医部会アンケート2018より引用(回収率74%)

日本産婦人科医会施設情報調査2018より引用(回収率98.1%)集計分娩数 942,318件(厚労省 確定値946,065出生)

妊婦健康診査—妊娠時期と検査項目

時期	超音波検査	CQ番号と 推奨レベル	血液検査	CQ番号と 推奨レベル	その他の検査	CQ番号と 推奨レベル
妊娠初期	妊娠の確認・予定日確認	203, B	血算, 血型, 不規則抗体 風疹, 梅毒, HBs抗原, HCV HTLV-1抗体, HIV抗体 トキソプラズマ抗体 随時血糖	003, A 003, A 003, A 003, B 005-1, B	子宮頸がん細胞診 クラミジア(30週まで)	002, C 602, C
10-15週					細菌性膣症	601, C
20週頃	頸管長(24週まで) 胎児発育, 胎位 胎盤位置, 羊水量	302, C 001, 解説 001, 解説			NICE質問法など	011, C
24-28週			随時血糖または50gGCT	005-1, B		
30週頃	胎児発育 胎位 胎盤位置, 羊水量	307-1, B 001, 解説 304, B	血算	001, 解説		
33-37週					B群溶レン菌(GBS)	603, B
37週頃	胎児発育, 胎位	001, 解説	血算	001, 解説		
41週以降		409, B			NST, CST, BPS	409, B

日本産科婦人学会、日本産婦人科医会編. 産婦人科診療ガイドライン. 産科編2017

妊婦健康診査の回数

妊娠初期～妊娠24週 4週ごと 4～5回
 妊娠24週～妊娠36週 2週ごと 5～6回
 妊娠37週～妊娠41週 1週ごと 4～5回 計 約14回

産後健康診査: 産後1ヶ月, 施設により産後2週間

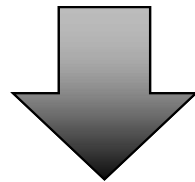
妊産婦の診療の現状

妊産婦の現状

- ・母体の高齢化が進み、高齢妊産婦では、周産期死亡率、妊産婦死亡率が高い。
- ・産科合併症(54.8%)は横ばいだが、偶発合併症(32.2%)が増加している。
- ・医学的ハイリスクに加え、メンタルヘルスケアの需要や社会的ハイリスクが増加している。

産婦人科医療機関の現状

- ・分娩を取り扱う施設が減少している。
- ・医師の全体数は増えているが、他の診療科に比べ、産婦人科医師の増加率は少ない。
- ・他の診療科に比べ、病院に勤務する産婦人科医師の労働時間は長い。

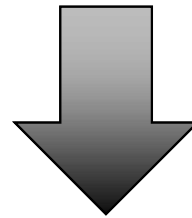


- ・産科の診療では、妊婦健康診査に加え、増加する様々なハイリスク症例に対し、母体と児への対応が必要。
- ・偶発合併症の増加により、産科診療では他の診療科との連携を拡充が必要。
- ・社会的ハイリスクの増加に対し、子育て世代包括支援センターなど行政とのさらなる連携が必要。
- ・診療を担う産科医師の負担軽減が必要。

妊産婦の診療に関する現場での課題

妊産婦の診療に関する現場での課題

- ・妊産婦の診療に馴染みの少ない医療機関(診療科)がある
- ・風邪, インフルエンザ, 花粉症などの場合, 産婦人科への診療情報提供がないことが多い
- ・地域によっては, 産婦人科の医療機関までのアクセスが不便なところがある.



- ・産科以外の診療科でも, 妊産婦診療への配慮や理解を深める必要がある.
- ・疾患の専門性や妊産婦の利便性(アクセスなど)を考慮し, より多くの医療機関で妊産婦の診察が可能になるよう, 研修等の仕組みを考える必要がある.
- ・産科管理上, 診療科間の情報(診断・処方など)共有は必須で, 診療情報提供書だけでなく, 母子手帳やセミオープンシステムの共通手帳の利用など, より簡便な方法の検討が望まれる.